

あやべ 市議会だより

No.127

2019年(令和元年)
11月発行



新しく誕生した
あやべ・日東精工アリーナ



綾部市総合文化祭
ー作品展ーが開催されました。

平成30年度決算を可決・認定

令和元年9月定例会を9月3日から10月11日までの39日間の会期で開催しました。

本定例会では市長から提案された議案35件を審議しました。議案については、いずれも原案のとおり可決・認定・同意しました。(採決の結果は6ページに記載)

上程された議案は、3つの常任委員会に付託され、審査しました。その内容は次のとおりです。

予算決算委員会

平成30年度決算を可決・認定

未曾有の大災害による厳しい財政状況も オール綾部で黒字を確保

決算審査

●審査のあらまし

決算審査は、議案13件について10月2日から10月7日までのうち4日間にわたり慎重に審査しました。

一般会計と特別会計の歳入総額は291億9527万円、歳出総額は287億8652万円で、歳入歳出差引は4億874万円の黒字となりました。一般会計では47年連続の黒字となっています。

公営企業会計は、上水道事業の当年度純利益9643万円で36年連続の黒字となりました。病院

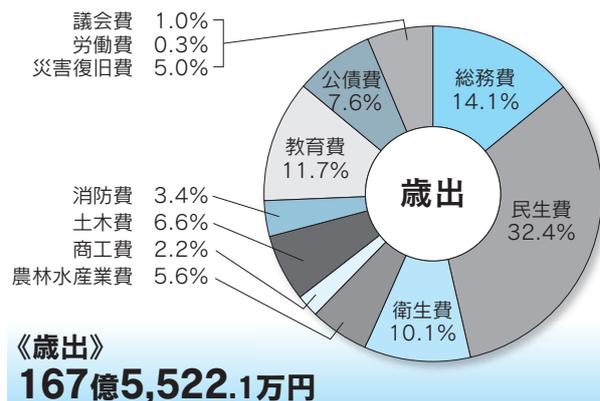
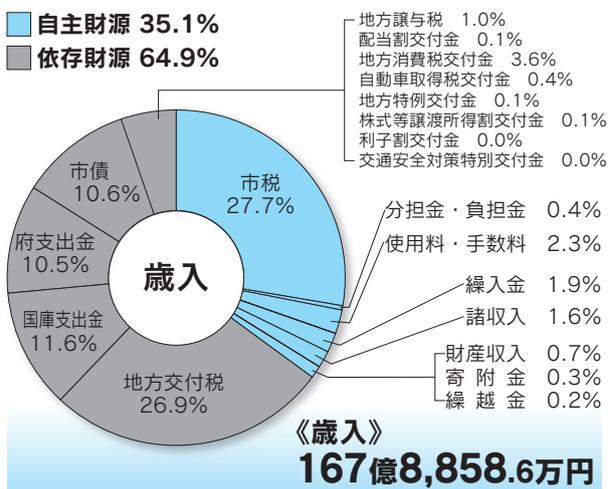
事業は入院収益の増により当年度純利益は133万円となり、3年ぶりの黒字を確保しました。

●基金残高が5年ぶりに増加

一般会計の市債(借金)は6億561万円増の144億7910万円となり、基金(貯金)は行財政健全化の取り組み等により、5094万円増の39億143万円となりました。

市債の借入に当たっては、交付税の算入等、後年度の償還に有利な市債発行となっています。

平成30年度 歳入歳出の状況(一般会計)



平成30年度 会計別決算収支の状況

(単位:円)

区分	歳入総額	歳出総額
一般会計	16,788,586,079	16,755,220,973
特別会計		
市立診療所等特別会計	34,423,135	34,423,135
農林業者労働災害共済特別会計	3,600,045	3,179,947
国民健康保険特別会計	3,679,947,828	3,679,325,763
介護保険特別会計	4,745,195,079	4,622,353,695
後期高齢者医療特別会計	548,185,507	537,438,894
駐車場特別会計	24,708,057	24,708,057
簡易水道特別会計	390,825,807	390,825,807
下水道事業特別会計	2,200,707,330	2,030,781,146
地域排水事業特別会計	692,495,934	621,671,955
住宅・工業団地事業特別会計	86,599,222	86,599,222
小計	12,406,687,944	12,031,307,621
合計	29,195,274,023	28,786,528,594

区分	収入	支出
公営企業会計		
上水道事業	840,520,571	744,086,869
病院事業	6,546,740,564	6,545,407,937

■ 審査の結果

一般会計は賛成多数、他の 12 議案は全員賛成で可決及び認定となりました。委員会審査で出された主な意見は次のとおりです。

■ 一般会計

〈全般〉

- ・たび重なる豪雨災害に対し、道路、河川、農地、農業用施設、水路、防護柵など、迅速な復旧対応を評価する。前年度からの繰り越し事業を完了し、次年度へ繰り越した事業については引き続き対応されたい。

〈総務費〉

- ・あやバスの運行について地域要望が数多くある。路線拡充だけでなく、抜本的な公共交通の確保策を講じること。
- ・鉄道利用促進事業補助金を評価する。通学費補助については、対象者がより利用しやすい制度となるよう検討されたい。

〈民生費〉

- ・民生委員、児童委員、主任児童委員に対する継続しての活動費の助成を評価する。さらなる地域福祉の充実に努められたい。
- ・高齢者福祉に関しては、厚い支援をされていることを評価する。今後、ますます高齢化比率が高まることが予想されるため、さらなる支援の充実をされたい。

〈衛生費〉

- ・各がん検診の受診率を上げるため、休日の検診日を増やされたい。

〈労働費〉

- ・技術や資格を要する求人に対応できるスキルアップと、地元雇用への支援を強められたい。

〈農林水産業費〉

- ・有害獣対策について研究を進め、さらなる対策の実施を求める。

〈商工費〉

- ・ものづくり連携事業を通し、市内の子どもたちへの啓発活動を行い、また大学、高校と連携し、市内企業を巻き込んだ人材育成の取り組みを評価する。引き続き優秀な人材を育成するため、惜しみない支援に期待をする。

〈土木費〉

- ・災害多発の中、最も要望の多い市道整備及び道路維持管理に努力されていることを評価する。安全・安心のライフラインとして、市道の整備と維持管理のさらなる充実が必要である。

〈消防費〉

- ・聴覚・言語障害者向け緊急通報システム整備事業を高く評価する。さらに、多くの聴覚・言語障害者の方が利用できるように啓発されたい。

〈教育費〉

- ・綾部中学校・八田中学校の完全給食の開始を高く評価する。さらに地元産食材を使った質の高い学校給食を図られたい。



〈災害復旧費〉

- ・多くの復旧事業を短期間で実施されていることを高く評価する。また、復旧していない箇所についても早期の実施を図られたい。

■ 市立診療所等特別会計

- ・医療過疎地域の在宅医療について、医師会とも連携して進めること。

■ 農林業者労働災害共済特別会計

- ・農業従事者の高齢化を背景に事故件数が増加する傾向にあり、事故防止、注意喚起などをさらに強化すること。

■ 国民健康保険特別会計

- ・医療費通知、ジェネリック差額通知を実施しており、さらなる医療費の適正化を図りたい。

■ 介護保険特別会計

- ・地域で高齢者の見守り等の活動をされている団体へのさらなる支援充実を図りたい。

■ 後期高齢者医療特別会計

- ・被扶養者の保険料軽減特例の廃止により負担が増える。実態を把握し、受診抑制がないようにすること。

■ 駐車場特別会計

- ・すべての駐車場で利用台数が前年度を下回っている。さらなる市民の利便性の向上に努めること。特に、パークアンドレールの利用しやすい料金設定を検討されたい。

■ 簡易水道事業特別会計

- ・簡易水道利用地域が一日も早く上水道になるよう努められたい。

■ 下水道事業特別会計

- ・水洗化率のさらなる向上に努められたい。

■ 住宅・工業団地事業特別会計

- ・住宅団地、残り24区画の早期完売に努められたい。

■ 上水道事業会計

- ・水道管の老朽化率が進行している。これまで以上に重点的に更新工事に取り組むこと。

■ 病院事業会計

- ・医師確保に努力されたい。
- ・適正な事務手続きがされるよう指導されたい。

■ 令和元年度一般会計補正予算（第3号）

地域の安全・安心対策を最優先に、幼児教育・保育無償化や農業振興施策の取り組みなど、少子化対策、豊かな地域づくりを推進するために要する経費です。

<主な内容>

- ・コミュニティ助成事業費
 - ・山家ふれあいの駅活性化事業費
 - ・幼児教育・保育無償化制度事業費
 - ・農地中間管理機構関連農地整備事業費
 - ・I・Tビル管理運営費
 - ・消防団活動支援事業費
 - ・平成30年7月豪雨等で被災した市道の復旧に要する過年度発生公共土木施設災害復旧事業費など
- 総額2億3038万円の追加予算を計上するものです。

その他、特別会計5件について審査しました。

採決の結果、6議案とも全員賛成で可決となりました。



平成30年7月豪雨で被災した市道黒谷線

●市立幼稚園の保育料が無料になります

幼児教育・保育の無償化に伴い、市立幼稚園の保育料を無料にするものです。

質疑の中で、「預かり保育料は認定を受ければ無料になるのか」との質問に対し、「就労等による保育を必要とする理由があれば認定を行い、無料となる」との答弁がありました。

また、「無償化に伴う財源は」との質問に対し、「令和元年度は子育て臨時交付金で国が全額負担、令和2年度以降は地方交付税で措置される予定となっている」との答弁がありました。

採決の結果、全員賛成で可決となりました。

その他6議案について審査を行い、採決の結果、全員賛成で可決となりました。



●綾部市印鑑条例の一部が改正されます

住民基本台帳法施行令及び国の印鑑登録証明書事務処理要領が改正され、これに伴い、住民基本台帳に記載される旧姓も印鑑登録することができ、また印鑑登録証明書に記載できるようにするため、市の印鑑条例においても所要の改正を行うものです。

質疑の中で、「複数回、姓が変わった場合の対応は」との質問に対し、「初めて登録される場合は、いずれの旧姓も使用できるが、その後、姓に変更があり登録変更をされる場合は、直前に称していた姓を使用することになる」との答弁がありました。

また、「手続きの際に使用する書類は、戸籍謄本以外にもあるのか」との質問に対し、「原則、戸籍謄本を添付してもらうことになる」との答弁がありました。

さらに、「この制度の周知方法は」との質問に対し、「広報ねっとやホームページの活用、窓口にお越しになった際にはチラシ等を配布し、周知を図りたい」との答弁がありました。

採決の結果、全員賛成で可決となりました。

その他、4議案について審査を行い、採決の結果、全員賛成で可決となりました。

2019年11月5日(火)からスタート!

**住民票とマイナンバーカードに
旧姓(旧氏)が併記できます!**

住民票にも旧姓(旧氏)欄が! ここに旧姓! 入りませ!

マイナンバーカードに旧姓(旧氏)が併記されることで、旧姓が各種証明に使えます!

旧姓(旧氏)併記はこんなときに役立つ!

◆こんなときに! 各種の契約や銀行口座の名義に旧姓が使われる場合で、その証明に使えます。

◆こんなときに! 就職・転職時など、仕事の場でも旧姓で本人確認ができます!

《 全員賛成で可決・認定・同意した議案》

	件名	結果
議第106号	一般職職員の給与に関する条例の一部改正	可決
議第107号	職員等の旅費に関する条例の一部改正	可決
議第108号	印鑑条例の一部改正	可決
議第109号	市立幼稚園保育料等に関する条例の一部改正	可決
議第110号	子ども・子育て支援法に基づく過料に関する条例の一部改正	可決
議第111号	特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正	可決
議第112号	都市公園条例の一部改正	可決
議第113号	簡易水道条例の一部改正	可決
議第114号	上水道給水条例の一部改正	可決
議第115号	火災予防条例の一部改正	可決
議第116号	消防団員の定員、任免、服務等に関する条例の一部改正	可決
議第117号	令和元年度一般会計補正予算(第3号)	可決
議第118号	令和元年度農林業者労働災害共済特別会計補正予算(第1号)	可決
議第119号	令和元年度国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	可決
議第120号	令和元年度介護保険特別会計補正予算(第2号)	可決
議第121号	令和元年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	可決
議第122号	令和元年度簡易水道特別会計補正予算(第1号)	可決
議第123号	市道路線の認定	可決
議第125号	平成30年度市立診療所等特別会計歳入歳出決算の認定	認定
議第126号	平成30年度農林業者労働災害共済特別会計歳入歳出決算の認定	認定
議第127号	平成30年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定	認定
議第128号	平成30年度介護保険特別会計歳入歳出決算の認定	認定
議第129号	平成30年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定	認定
議第130号	平成30年度駐車場特別会計歳入歳出決算の認定	認定
議第131号	平成30年度簡易水道特別会計歳入歳出決算の認定	認定
議第132号	平成30年度下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定	認定
議第133号	平成30年度地域排水事業特別会計歳入歳出決算の認定	認定
議第134号	平成30年度住宅・工業団地事業特別会計歳入歳出決算の認定	認定
議第135号	平成30年度上水道事業会計利益の処分及び決算の認定	可決及び認定
議第136号	平成30年度病院事業会計利益の処分及び決算の認定	可決及び認定
同第3号	教育委員会委員の任命	同意
同第4号	固定資産評価審査委員会委員の選任	同意
諮第2号	人権擁護委員の候補者の推薦	同意
諮第3号	人権擁護委員の候補者の推薦	同意

《 賛否が分かれた議案》

(賛成：○ 反対：×)

件名・結果	議員	民政会				創政会			共産党		新国会	公明党	心友会					
		種清	片岡	安藤	本田	酒井	藤岡	荒木	渡辺	柳原	梅原	搦頭	吉崎	井田	中島	村上	森	塩見
議第124号	平成30年度一般会計歳入歳出決算の認定	認定		○				○				×		○	○	○		

※議長は採決に加わっていません。

討 論

反対

日本共産党
井 田 佳代子

市民生活応援の施策を
給与所得者の平均収入は平成12年と比較して40万円も減少している。今、政治に求められているのは増税ではなく格差と貧困の是正。求人倍率を1.35倍へ押し上げているのは、介護職や保育士など技術職、現場労働者の実態調査と市独自の改善策を。2018年から生活保護基準の切下げが行われているが、医療・介護・教育等の制度に連動するため、国に切り下げ中止の声をあげること。ごみ袋の売価は原価の2倍になっているため引き下げを。学校給食無償化・一部補助は500自治体が実施、子ども応援の施策を。人権啓発は、教育を中立的立ち場で行う教育委員会で行われるべき。

議第124号
平成30年度綾部市一般会計歳入歳出決算の認定について

賛成

民政会
酒 井 裕 史

災害復旧が最優先の平成30年度
平成30年度は山崎市長が掲げられていた「医・職・住」と「教育・情報発信」をキーワードに「住んでよかった」「住みたくなる綾部」「住み続けられるまちづくり」の実現に向け、綾部・八田中学校での完全給食開始や志賀・上林小学校区での放課後学級開設準備、新市民センター建設工事などさまざまな施策を実施された。しかしながら、7月6日から7日に発生した七月豪雨災害により緊急災害復旧を最優先で行うことになり、実施事業が先送りになった各部署の方々も残念な思いがあったと感じる。市政のため、優先的に行うことを選定し、財政状況を鑑みながら事業を推進されたことを大いに評価したい。

同意した人事案件

●教育委員会委員の任命

大 島 友紀子さん（大島町）＝新

●固定資産評価審査委員会委員の選任

由 良 茂 文さん（新庄町）＝再

●人権擁護委員の候補者の推薦

新 川 範 子さん（高槻町）＝再

樋 口 高 夫さん（青野町）＝再

令和元年12月定例会の日程予定

12月定例会は、12月3日から23日までの21日間の会期で予定しています。

12月 3日(火) 本会議(議案上程)
10日(火) 請願受理締切り
(正午)
11日(水)～13日(金)
一般質問
16日(月) 総務教育建設委員会
17日(火) 産業厚生環境委員会

18日(水) 予算決算委員会
(総括質疑)
19日(木) 予算決算委員会
(予算審査)
23日(月) 本会議(採決)

市政を問う

9月11日から13日の3日間にわたって14人の議員が市政全般について質問を行いました。ここでは一般質問の要旨を掲載します。(掲載は登壇順)

創政会 梅原 哲史

林業経営者間の連携が必要では

Q 多くの方が注目する森林経営管理制度だが、制度の開始に先立ち、昨年度実施の事前アンケートの結果は。

A 調査対象は全自治会191及び22の全生産森林組合で、回答率62%。経営管理の委託希望は、自治会24件、生産森林組合6件である。

Q 本制度で森林所有者の意向に基づき、森林所有権を残したまま、市が経営管理を引き受け、林業経営者に再委託を行う中で伐採、造林、保育を行うという認識でよいのか。

A 経営に適する森林は意欲と能力のある林業経営者に再委託を、適さない森林は市自ら経営管理を行う。令和元年度は奥上林地区で間伐、中上林地区で境界明確化を実施予定であり、制度運用の課題を明らかにしたい。

Q この制度の対象となる面積は甲子園球場約2600個分となるが、その大部分の管理義務を市が背負うことの想定は。

A 現段階では森林環境譲与税による森林整備と、経営計画ができている所は従来の国・府の補助制度で森林整備を進めていく。

Q 意欲と能力のある林業経営者間の連携や、協働関係の構築を本市が積極的に推進する考えは。

A 整備事業量を増やすには複数の林業経営者の連携と共存・共栄が必要。さまざまな視点でその手法を研究していきたい。



綾部駅北側のさらなる開発の推進を

民政会 安藤 和明

Q 「京 綾部ホテル」閉館に伴い2階にあった広間での同窓会や会議・宴会などコンベンション機能の代替機能について、市民も既存の料理店や会議ホールを活用して開催しているが、百人規模が限界で、ホール機能の充実を望む声がある。6月議会でも市長は市民の要望がある中で対応に努力すると答弁されたが、その後どのような状況か。

A 同ホテルの閉館を知った本市ゆかりのホテル経営者から、新たなホテルをJR綾部駅北側に建設し、ふるさとに貢献したいとの申し出があった。綾部市としては従来から検討していた新図書館に加え、市民要望の強いホールとホテル機能を持つ複合施設として一体的に整備することを駅北開発第2期計画に位置づけ、実現のための財源・手法について庁内プロジェクトチームを立ち上げ、検討を開始した。

Q 第1期事業であった綾部駅北側の北部産業創造センター隣接地に第2期計画として新たに複合施設を建設するとの考えを聞いたが、今後の具体的な計画や整備手法等については。

A 第1期計画同様、図書館、コンベンションホール、ホテルを民間事業者が一体的に整備し、市が図書館とホール部分を買収して区分所有する公民連携手法を考えている。



副食費も含む幼保無償化の実現を

Q 10月から3〜5歳の子どもと2歳以下の住民税非課税世帯の子どもに対する幼児教育・保育の無償化が始まるが、3〜5歳児の副食費は実費徴収される。その金額と徴収方法は。

A 徴収は各園で行い、公立の物部保育園は月額4500円、民間園も同額と聞いている。年収360万円未満相当世帯の子どもと年収360万円以上相当世帯の第3子以降は、これまでの保育料算定と同様に減免となる。

Q 土曜日も給食提供していた園も、10月以降はすべての園が弁当持参の方針となったようだが、その理由は。

A 月額4500円という徴収金額や土曜保育部分の取り扱いはいは各園で決めていただいている。

Q 今回の無償化に伴う市の事務負担分は全額国費で賄われる一方、制度変更で一方的に徴収事務の大きな負担を強いられる各園には何の支援もない。市として施策を講じるべきでは。

A 各園の事務負担増について国・府の補助金等は現在のところない。従来から行っている実費徴収事務の一つとして行っていたいただきたい。

Q 給食は食を営む基礎を養うものであり、保育の重要な要素。高砂市など独自補助により副食費も無償化する市町村が広がっている。本市も検討を。

A 国・府の制度の活用により副食費の実費徴収化で負担増の家庭はない。制度の範囲内で実施するというのが市の方針である。



障害のある人達への支援の状況は

Q 現在、市内で障害のある児童のための、放課後等デイサービスを実施しているのは2事業所ということであるが、利用できる地域と人数を増やす必要があるのでは。

A 現在、市内の利用者の4割以上は市外の事業所を利用している。さまざまな形態の事業所の開設と、事業所定員を増やす支援も今後の研究課題として考えている。

Q 聴覚障害者支援として、要約筆記者養成講座を開催されているが、知っている市民の方が少ないと感じる。私自身、今年の要約筆記者養成講座を受けたが受講者は5名であった。幅広い周知活動が必要では。

A 要約筆記者養成講座の受講生は例年5名程度。市のホームページやエフエムかかる、メールマガジン等での広報や受講者募集ポスターの掲示箇所を増やすなど、努力していきたい。

Q 先日、市役所に導入された、音声文字化システム(UDトーク)は聴覚障害のある人々には、非常に意義のあるものと感じる。多くの人が利用する自治会連合会の公民館などにも導入が必要では。

A 離れた場所で使用するためにはシステムのプラン変更が必要。現在の数倍の費用となるため、今後の使用状況を勘案する中で、運用について考えていきたい。



有害鳥獣(猟師の高齢化)問題を問う

Q 昭和50年には全国に51万人おられた猟友会会員が平成27年には19万人に減少している。また、その内の60歳以上の会員は12万人で60%以上の率を占めている。本市の状況は。

A 4月1日現在、131人、内、60歳以上が99人と75・6%を占めている。銃猟免許所持者は全体で42人、60歳以上が33人の78・6%となっている。

Q 有害鳥獣駆除に欠かせない銃猟免許所持者の高齢化が進んでいるが、今後本市としてどのような対策を講じていくのか。林業者、農業者に免許取得の働きかけができないか。

A 銃器が使える捕獲隊員は必須であり、猟友会とも意見交換を行い、隊員の確保策について検討していく。また、従来からの媒体による広報に加え、森林組合だより等でも呼びかけたい。

Q 戦没者遺族会員の高齢化による会員減少が止まらない。また、戦没者追悼式の参列者も減少している。平和の大切さを伝えるためにも、今後一般参列者も参加しやすい方法にすることはできないか。

A 遺族会の高齢化は市としても認識している。追悼式については国や府、他市の状況も参考にし、遺族会などのご意見を聞きながら今後のあり方を検討していく必要があると考えている。



観光振興と発掘について問う

民政会 藤岡 康 治

Q 観光バスが何十台もグンゼスクエアに乗り入れるようになったことは、10年前は想像できなかったすばらしいことである。さらに未来蔵もオープンし、夏あかりイルミネーションで新たな観光を促進させる原動力となる今、「道の駅」にしてさらに地域活性化を目指すなど展望は。

A 令和2年に開園10周年を迎えるにあたり、綾部バラ会がバラ園のリニューアルを進められている。こうした連携団体の取り組みの一部に対し補助支援を行っている。道の駅の登録は施設の所有形態や企業名が入ったネーミングなどの運営形態で認定を受けるには難しい。

Q 綾部市の日本一として世界連邦都市宣言、合気道の発祥の地、水源の里条例、イストラエルのエルサレム市と友好都市宣言があるが、これに続く発掘は。

A 平成23年度に「あやべのイチバン！」として綾部の魅力を集約し、PRに努めている。

Q 今後、日本一や10年後の綾部の象徴になるようなプロジェクトや、綾部オンラインワンの企画提唱やアイデア等の意見が職員から提案できるような仕組みは。

A 若手職員で構成する「綾部市未来・まちづくり研究会」を設置し、課題研究を行っており、新たな提案検討にも活用したい。



福祉フロンティアの運転手確保を

民政会 片岡 英 晃

Q 福祉フロンティアの福祉有償運送サービスは、長年にわたり多くのボランティアの皆様のお支えにより今日まで継続してこられた。運転免許の返納や高齢化により利用登録者数は増加し、福祉フロンティアの重要性は増している。しかし、ドライバーの高齢化も課題となってきた。ドライバーの確保に向けてどのような施策を実施していくのか。

A 運転ボランティアが増加するための取り組みについて効果的な対策が見い出せていない状況ではあるが、引き続き運転ボランティアの確保対策及び移送サービス事業について法人と十分協議を行い、安定的・継続的な事業展開ができるような取り組みを継続していきたいと考えている。

Q ドライバーの高齢化が進む中で、毎年、高齢ドライバーの検査を受けてもらうなど、ドライバーの皆さんが安心して、また、自信を持って運転業務が遂行できるような環境整備が必要ではないか。

A 定期的な安全運転講習の受講は、運転ボランティア本人にとっても自信を持つて運転ができることにつながるものと考えられる。今後も法人との連携に努め、安全・安心な移送サービスが継続できるように、仕組みづくりを検討していきたいと考えている。



企業誘致のための用地確保を

創政会 荒木 敏 文

Q 綾部市は市制発足以来、財政基盤が弱かったため、その強化のため、京都縦貫自動車道のルートを経由するよう、強力な要望活動を行ったり、オムロンや京セラの誘致、住宅・工業団地の造成・販売事業等の施策を展開してきた。

A 本市においては、府が綾部工業団地を整備し、市が綾部市工業団地を整備して企業誘致を図ってきたところである。平成25年に全区画の契約が完了し、二つの工業団地で合計29の企業に操業いただいている。

本市は舞鶴若狭自動車道と京都縦貫自動車道の結節点で、全国の高速自動車道路網と連絡する優位性を活かし、短・中期的には遊休地となっている民間用地の仲介を行いつつ、長期的には、工業団地の整備等により新たな産業用地の確保を目指すこととしており、府に対し綾部工業団地の増設等の要望を継続して行っている。



日本共産党 井田 佳代子

避難情報警戒レベル4の周知は

Q 全国的に災害情報の呼びかけに、避難が進まないことが問題になっていて。市内でも大雨や台風のため避難勧告、避難指示が出されてきたが、実際の避難結果をどのように見ているのか。

A 昨年7月豪雨での避難者は1111名、全体の0.33%。その後も避難者の増加はなく、大きな問題と考えている。避難に対する意識や行動を変えることが今後の課題と考えている。

Q 避難のタイミングをわかりやすくしたとされる五段階の避難情報は、避難レベル4で「全員避難」となっているが、住民への周知はどうか。

A 課題となっている避難行動を促すため「全員避難」という言葉を使っている。災害リスクのある場所にお住いの方、不安な方は早めの避難をお願いしたい。

Q 差し迫る危険を知っていただくために、ハザードマップが全戸に配布されているが、現在どこにあるかわからないという方もいる。十分活用されていないのではないかと。

A ハザードマップは、平成24年から27年にかけて配布したもので、関心が薄れていることも考えられる。今一度マップの重要性をPRし、市内の主要河川の浸水情報が発表された時点で再発行し、周知を図りたい。



民政会 種 清 喜 之

国際交流を活かしたまちづくりを

Q 本市の特色ある国際理解教育の中で、さらに外国語や異文化に触れる機会を増やすことができれば、学習意欲向上に有効であると考えますが本市の見解は。

A 京都府観光政策課やNPO法人等が実施する国際交流事業を積極的に受け入れ、支援することにより充実させていきたい。

Q 市内在住の外国人の方も増えており、市内の子供達や市民と一緒にイベントを楽しんだり案内ガイドをするなど、市内で国際交流を図る機会を創出されては。

A 中東和平プロジェクトや国際交流協会等の各種イベントで国際交流の機会を創出してはいる。今後もさまざまな機会を捉えて創出していきたい。

Q 平成28年に本市からフィリピンへ調査団を派遣されたが、今後ますます人口増や経済発展が見込まれ、英語圏でもあるフィリピンのご縁のできた都市と、双方にメリットある友好都市やパートナーシティ提携してはどうか。

A 現在、フィリピンから介護人材受け入れを準備中の市内事業所もあると聞いている。産業交流、介護人材、国際理解教育など各分野で候補先として期待されるが、まずは民間レベルの交流による相互理解、機運の醸成、高まりを待ちたい。



日本共産党 吉 崎 久

健やかに育つ放課後学級を

Q 放課後学級の果たす役割の認識は、どのように考えているか。私は、働く保護者の就労保障と異年齢児童の集団づくりと児童の健やかな発達を保障する場と考える。

A 就労などで、昼間保護者がいない家庭の児童に、放課後や長期休業中に適切な遊びや生活の場を提供することが目的と考えている。

Q 今年の夏休み時点での通年利用者数、夏休みのみの利用者数の状況はどうか。また、支援員の配置状況はどうか。

A 今年度から志賀小・上林小でも開設をした。通年利用409名、夏休みのみ利用192名。支援員は全体で45名に加えて、夏休みは15名を加えて実施した。

Q 夏休みの利用状況では、定員を大きく超えており酷暑の中で安全は確保できていたのか。

A 登録は昨年と比べると全体で70名ほど増えたが、出席状況は平均すれば登録の7割程度で、安全は確保されていた。

Q どんな子どもたちを育てようとするのか、指導計画はあるのか。またそれは支援員全ての共通認識となっているか。

A 発達段階に応じた自主性・社会性・創造性の向上と、基本的な生活習慣の確立を図ることが目標で、支援員全体で共有されている。



災害時要支援者避難対策の必要性は

創政会 柳原 秀一

Q 近年の大規模災害で、被災地全体の死者のうち、65歳以上の高齢者の死者数は約6割であり、障害者の死亡率は被災住民全体の死亡率の約2倍になっている。そこで、本市における避難行動要支援者台帳の登録名簿対象者と現在の登録者状況について伺います。

A 災害時要支援者支援台帳（あんしんカード）の対象者は、独居高齢者や自立避難が困難な要介護認定者、障害者等で、本人の申請に基づき作成している。台帳登録者数は8月現在で1644人である。

Q 登録名簿を基に、個別の支援や行動計画を事前に決めて訓練を行い、地域で要支援者を支える体制を整備することが重要だと考えるが、市の考えは。

A 日頃から地域で要支援者を支える体制の整備は大変重要であり、自治会の実情に応じて自主防災組織や消防団、民生委員の皆様等で連携を取り合い、登録名簿情報を有効に活用いただきたい。

Q 高齢者や障害者が災害に主体的に行動できるよう、防災や福祉、保健医療等の各機関同士が連携し、地域の防災力を高めるための研修を行うことが必要と考えるが、市の考えは。

A 関係機関相互の情報共有及び連携、防災研修に努め、災害対応に取り組みたい。



消費税 10% は地域経済に打撃

日本共産党 搦頭 久美子

Q 府北部の今後の景況動向をみると悪化の見通し。また、私たちが今取り組んでいるアンケートでも消費税増税「反対」が多数。勤労統計調査でも実質賃金が減少しており、増税と国の対策で混乱が予想される。市内への影響と見解は。

A 中小企業景況調査では、売り上げや採算性は改善傾向にあるが、受注減の企業も出始めている。増税は社会保障費の財源確保が目的。影響に対応する軽減税率、商品券、キャッシュレス決済等の対策について周知し、円滑な運営に努めたい。

Q 市内業者の方からプレミアム商品券について「結局、大手に流れてしまう」との声があるが市内の小売店で利用を促進する工夫、対策は。

A 商工会議所で取扱店の一覧を作成されるので、子育て世帯へ通知するときに同封する。またホームページで案内する。

Q 米紙社説に「消費税増税は日本の経済をさらに悪化させ自傷行為」とある。市内業者の不安の声はどうか。増税後の相談窓口、融資制度など市の考えは。

A 商工会議所で消費税軽減税率対策窓口相談等の事業が行われており、今後セミナー等を計画。市として景気悪化に対する相談窓口は考えていない。関係機関と情報共有する中で検討したい。



安全・安心な市道管理を

民政会 本 田 文 夫

Q 向田町の上大門から志賀郷町若宮神社前の市道向田線は、現在7名の中学生、数名の高校生が自転車通勤する道路であるが、道路幅が狭く自動車の離合も困難で、見通しが悪い箇所もあり大変危険な状況である。地域の安全・安心の観点から拡幅はできないか。

A 当市道においては、過去に3カ所の待避所の整備、路肩を明確にするための外側線の設置を実施してきた。その後、待避所の増設や拡幅整備の事業化が進んでいない状況である。

市道の拡幅や改修要望を各自治会からいただいております。優先順位をつけるなかで整備を検討していきたい。

Q 市道向田線と市道白道路仁和線の交差点、特に市道向田線の道路幅が狭く離合できず、見通しが悪い。最近トラックが側溝へ脱輪して横転したり、交差点での出会いがしらの事故が多く発生している。中学生の通学路でもあり、早急に改修できないか。

A 交差点から市道向田線の最初の待避所までの約100メートル区間については、道路幅員が狭く見通しも悪い状況となっており、今後、優先順位をつけるなかで、当該箇所の整備を検討していきたい。



視察報告

総務教育建設委員会

【日程】令和元年7月23日(火)～25日(木)

村上委員長、本田副委員長、
酒井委員、井田委員、柳原委員、吉崎委員、
荒木委員、種清委員、高橋委員

■石川県白山市「白山SDGs未来都市2030ビジョンについて」

■石川県珠洲市「SDGs未来都市について」

両市は人口、面積とも規模は違いますが、それぞれの特色を生かした目標を定められており、白山市においては「白山の恵みを次代に贈る“白山SDGs未来都市ビジョン”」という取り組みで、山間部を拠点に産官学民連携で環境に調和した持続可能な豊かな生活や経済発展を実現しようとするものでした。

また、珠洲市においては「能登の先端“未来都市”への挑戦」という取り組みで、金沢大学の能登SDGスラボとの連携活動や奥能登国際芸術祭等による過疎地域イノベーションへの挑戦でした。

綾部市においても両市と共通する部分も多々あり、現在策定中の第6次綾部市総合計画に大変参考になる研修であったと強く思いました。

■福井県大野市「大野へかえろう事業について」「水への恩返し事業について」

「大野へかえろう事業」は、進学、就職等で大野市を離れていく若者たちに向け、地元の大人から「いつか大野へかえってきてね」というメッセージを伝えるもので、主な取り組みとしては、「大野ポスター展」があり、地元の事業所のポスターを市内の高校生が制作するという内容でした。

また、「水への恩返し事業」は水の恵みを分かち合う活動を通じ、市民が水は「当たり前」ではなく「ありがたい」と再認識し、大野に自信と誇りを持つことで、いずれも人口減少対策につなげようとする事業でした。

綾部市においても人口減少対策は大きな課題の一つであることから、同一規模の人口であり、自然環境も似ている大野市の取り組みを参考にし、人口減少対策等に取り組んでいきたいと思いました。



産業厚生環境委員会

【日程】令和元年8月6日(火)～8日(木)

片岡委員長、渡辺副委員長、
塩見委員、梅原委員、藤岡委員、中島委員、
搦頭委員、安藤委員、森委員

■秋田県大仙市「花火通り商店街の活性化について」

大仙市は、人口減少や郊外型大型店舗の進出により、商店街への来客が減少し、昭和40年頃までは、約3キロメートルにもおよぶ商店街が、現在は350メートルまで縮小しています。

このような状況を打開すべく、ひなび大曲有限責任事業組合を立ち上げ、地域ならではの魅力を活かして商店街再生の取り組みをされています。

綾部市においても、商店街の活性化は喫緊の課題です。何かやってみたく思っている若者への支援をしつつ、既存の商店には、何をどうすれば売上げにつながるのかといった、時代のニーズや手法を学ぶ機会の創出も商工会議所等と連携を図る中で、支援を検討していく必要があると思いました。



■岩手県北上市「自家用有償旅客運送の取り組み、買い物難民支援について」

北上市では、公共バスがありましたが、さまざまな理由からバスの便数が減り、路線が縮小されていきました。地域として、交通弱者の困った状況を打開するために、口内町自治協議会が社会実験を実施され、可能性を探り、自家用有償旅客運送を実施されています。また、コミュニティーストアの運営や配達サービスも実施されています。さらに、高齢者の生活支援や特産品の開発・販売など、多岐にわたり地域のために活動を展開されています。

綾部市としても、地域内交通の充実は大きな課題であるとともに、買い物難民に対する支援も必要となってきています。この取り組みを参考に、地域として何ができるか、そして、その地域に対して、行政としてどんな支援ができるのかを考えていく必要があると思いました。

■宮城県仙台市「IoT事業、井土生産組合の運営について」

仙台市井土地区は、豊かな食材に恵まれ、これまでから農業が盛んな地域でしたが、東日本大震災により、大きく変わってしまいました。先祖代々、引き継いできた農地を荒らすわけにはいかない有志にて平成24年に井土生産組合を設立されました。小規模農業から大区画の低コストな経営効率化を図るため、農地の大半を水稻栽培し、IoT技術も導入されて、そのほかの農地では、大規模化に適していると判断し、ネギ、タマネギの栽培をされています。

綾部市としても、水田の持つ涵養機能や美しい里山の風景を維持するため、農業への支援は必要です。農業の効率化のために、IoT技術に対する支援など検討していく必要があると思いました。

次世代からの メッセージ ～中筋ジャガーズ～ (令和元年9月取材)

1976年(昭和51年)に結成され、現在は28人(男子27人、女子1人)で活動されています。野球を通じて、体力の増強と豊かな人間性を養うとともに、あいさつなど基本的なことがきちんとできるように、指導されています。

部員を募集中!

お問合せ先
志賀 幹彦さん
TEL 090-8755-2489

チームのどんなところが好き?

- ぼくが、おちこんでいるとき、はげましてくれる。みんな元気でやさしく仲がよい。
- みんなが元気で笑顔でいるところ。
- 一人が声を大きく出すと、チームが一丸となる。ファインプレーや熱いプレーが好きで、そこでみんなが盛り上がる。
- 点をとられたときに励ましてくれるところ。みんな仲がいいところ。
- いつも笑顔なところ。学校でも仲良くしたり、全員が個性がありおもしろいところ。
- みんな明るい笑顔。ミスをしてしまった時、励ましてくれる。みんな仲がいい。監督はきびしい時もあるけど、やさしい。コーチが楽しいことをしてくれる。
- みんな明るくて元気なところ。
- みんなが仲良く、おもしろくて、野球熱心なところ。



将来の夢・目標は?

- 将来の夢はプロ野球選手です。目標はみんなで声を出して、京都の大会で優勝することです。
- 甲子園に出ること。
- 中学校野球をして、いい成績を残す。
- 将来の夢は、プロ野球選手です。目標は、まだ市の大会でしか優勝していないので、もっと大きな大会で優勝したいです。でも、そのためにはみんな一丸となってやっていくことが大切だと思います。
- 完封勝ちがしたい。バッターでも活躍できるようにしたい。甲子園に出たい。チームが一丸となって勝利すること。
- 将来の夢は甲子園に出て、ヒット、ホームランを打ってチームを勝利に導くことで、根尾選手みたいになりたい。
- 将来の夢は大工さんです。目標はキャプテンについていけるようにすることと、ヒットを打てるように工夫して打つこと。
- 甲子園に出場できるように、強い高校にいけるように練習をたくさんする。プロ野球選手になって活躍したい。

取材き終えて

「流した汗は期待を裏切らない」
集合時間の30分前に到着しましたが、すでに練習を始めていた保護者と子どもたちがいました。
監督とコーチ、保護者が子ども達をしっかりと支え、子ども達はみんなしっかりと夢・目標をもち、一丸となって野球を楽しんでいる、すばらしいチームでした。
皆様のさらなるご活躍を期待するとともに、今後も応援しています。

編集後記

第18期の市議会議員として就任させていただき1年が過ぎました。市長と議員という二元代表制のもと、市民の代表として付託を受け、様々な経験をすることができました。今後も、初心を忘れることなく、愛する綾部のために、しっかり働いてまいります。広報広聴委員会では、なお一層、みなさまに親しまれる、わかりやすい議会だよりと情報公開、ご意見やご要望を聞く機会づくりに努めてまいります。これからもみなさまの声を議会にお寄せください。よろしくお願いいたします。

編集/広報広聴委員会

◎森 義美・◎梅原哲史・藤岡康治・酒井裕史・井田佳代子・中島祐子・片岡英晃・渡辺弘造(◎委員長 ○副委員長)